

受験生としての自覚を持って受験勉強に臨もう

—自覚を持てば、自然と学習時間は長くなり、学習方法も工夫するようになる—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)地球温暖化のためか、今年(2013年)の7月は本当に暑い日が続きますので、どうかお身体に気を付けて頑張っていたいただきたいと思います。この番組は受験生の方のための番組でもありますので、高校入試や大学入試などの入学試験、いろいろな資格試験を受ける受験生の方に今日は少しアドバイスをさせていただきます。
2. 一番大事なことは、自分は受験生であるという自覚を持って勉強することです。自分は来年の1月・2月・3月に高校入試、大学入試を受験する「受験生であるという自覚」を持つことです。受験生は受験生としての自覚を持って毎日を過ごすこと、勉強することが大切です。
3. (1)自覚を持って勉強するのに一番大事なことは、高校入試であればどこの高校の試験を受けるのか、大学入試であればどこの大学の試験を受けるのか、受験する学校名を明確にすることです。

(2)できれば〇〇高校の〇〇学科、〇〇大学の〇〇学部というように、高校名と学科名、大学名と学部学科名を明確にしてから試験勉強に臨むとよいと思います。
4. (1)まだ決っていない人は、どのようにして受験する高校や学科、大学や学部学科を決めたらよいか。

(2)これはちょっと難しい話かもしれませんが、その高校を卒業してから、また、その大学を卒業してからどんなことをやりたいのかを考える必要があります。
5. (1)例えば、私は受験する高校や大学をどのように決めたのかを御参考までにお話します。私は小学校4年生の担任の先生から、小学校4年生になれば新聞に書いてあることはいくらかわかるのだから「新聞を読みなさい」と指導していただきました。そこで、小学校4年生から家でとっている毎日新聞という新聞を読んでいました。そのお陰でいろいろと勉強になりました。

(2) 中学校 2 年生ぐらいのときには、何と「将来は弁護士になりたい」とか「将来は外交官になりたい」と思い始めました。何のために弁護士になるのか・何のために外交官になるのかと言いますと、弁護士や外交官の本を読んでいるうちに、もしかしたら弁護士になれば人権の空白地帯を少しでもなくせるのではないかと、外交官になれば戦争をしない平和な国をつくることができるのではないかと、もっと言えば日本の独立を守ることができるのではないかと思うに至ったからです。

(3) 高校生のころは、新聞も読みましたが、岩波書店の本が好きで岩波新書や岩波文庫ばかり毎週 1 冊ぐらいずつ読んでいました。図書館にあった「世界」という岩波書店の雑誌も、毎月読んでいました。その当時の高校生は、本や雑誌をよく読んでいたようです。



6. (1) 小学生や中学生、高校生でも新聞、本や雑誌を読んだり、いろいろな人の話を聞いたりしますと、このようなことを考えるようになります。

(2) ですから、皆さんも、何のために高校や大学に行くのか・卒業したらどのような進路をとるのか・その進路をとった場合は何のために仕事をするのかというようなことを考えていただくと、「そうか、だから今はこの勉強をしなければいけない」ということになり、「自覚」が深まります。新聞、本や雑誌を読み、ラジオやテレビでやっている素晴らしい番組を見たり聴いたりしていただくと、いろいろなことが勉強になります。

(3) 現在出されている本や雑誌、新聞、放送は以前と比べて非常にわかりやすく、また、内容も多様性に富み、充実しています。

(4) このようにして自分自身で学校の教科以外のことも幅広く勉強し、社会に出てどのような仕事や活動、生き方をしたいのかということをも自分で考える。自分で考えたことをまず頭に置いて、それから高校や大学の進学先を決めていただければと思います。

(5) これが受験生としての自覚を持つときに一番大事なことです。

7. (1) 自分は受験生であるという「受験生としての自覚」が深まれば深まるほど、「受験生としての自覚」を持って勉強すればするほど、今学んでいることの大切さ、つまり、価値や意味がわかってきます。今やっていることの意味がわかればわかるほど、自然と勉強時間が長くなります。そして、どんなに長時間勉強しても時間が足りなくなり、眠る時間以外はすべて勉強に当てても何とも思わないようになります。

(2) また、1 日 24 時間という限られた時間をどう効果的に使って勉強したらよいか、勉強の仕方もいろいろと工夫するようになります。やるべきことは山ほどあり、「短い時間しか勉強できないのであれば、このような工夫をしながら勉強すればいいのかな」と考えるようになります。

(3) 自分自身で勉強時間を長くする工夫をし、勉強の仕方も工夫するようになります。

(4) 受験生としての自覚を強く持てば持つほど、今ここでしなければならないことがはっきりするので、そのようなことを考えつくわけですね。ですから、受験生は受験生としての自覚を持って勉強することを心からお願いします。

8. (1) ところで、よく考えれば「学習」という漢字には2つの意味があります。「学」の学(まな)ぶ、「習」の習(なら)うです。「学(まな)ぶ」とは、そうか、これはこういうことなのかと物事の本質がよくわかること、「理解」することだと私は思います。この「学ぶ」、つまり「理解」は、机に向かって一所懸命に教科書や教材を勉強したり、学校の授業中に先生のお話を熱心に聞いたりすることでできます。

(2) この「理解」も大切ですが、「理解」と同様に受験勉強で大事なものは「習う」です。「習う」、つまり、一度理解したり学んだりしたことを何度も何度も反復練習して身に着ける作業を行うことがとても大事です。

(3) 「習う」、つまり「身に着けること」を怠ると、いくら先生の授業が、ああ、これはこういうことなのかとよくわかって、つまり「理解」できても、人間はすぐに忘れてしまうので学力は身に着きません。

(4) 自分ではわかっている、つまり「理解」はしている、それが身に着いていなければ得点には反映されない、テストで点数が取れないのです。

(5) ですから、一度よくわかったこと、理解したことでも繰り返し繰り返し練習して正確に身に着けることが大事です。

9. (1) 一度「理解」したことを身に着けるための反復練習の中身で一番簡単なのは、「音読練習」、スラスラとよく読めるようになるまで声を出して読むことです。

(2) また、「書き取り練習」、正確に書けるようになるまで書く練習が大事です。

(3) 計算や問題は、計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと正確な答えが出るくらいまで計算練習や問題練習をすることです。

(4) 「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「音読練習」や「書き取り練習」「計算・問題練習」は、不可能を可能にします。テストで点数がどんどん取れるようになり、成績がどんどん上がりますので、是非やっていただければと思います。



10. (1) 受験勉強で大事なことは、「自分の未来は自分で切り開く」という考えです。受験勉強は、やった分だけ成果が出るものです。本当に報われます。勉強をすればするほど点数が上がります。学力が身に着きます。受験勉強をすると、自分の未来は自分で切り開く、自分の身は自分で助ける(自助努力)ということがよくわかってきます。
- (2) 最終的には、「受験勉強は自己責任」で、「自分で行ったこと責任は自分で取るものだ」という考えで行うものだということもわかってきます。これは、人生の基本です。
- (3) 「自己責任」、「自助努力」、「自分の未来は自分で切り開く」。人生の基本を身に着けるためにも、受験勉強に真正面から取り組んでもらいたいと思います。
11. 結果的には、私の場合は勉強の仕方が悪かったのか、勉強時間が少なかったのか、根本的には「受験生としての自覚」が不足していたために、弁護士にも外交官にもなれませんでした。しかし、ずっと遊んでいたわけではありませんので、そのプロセス、学習した内容はいくらか「理解」したり、身に着いたりして、今の自分の人生にとって非常に役に立っています。学習塾をやる上でも非常に役に立っています。いろいろな経済団体などで活動するときにも役に立っています。また、外交官にはなれませんでした。ユネスコ活動などをやらせていただいていますので、外交官とは違う立場で今やれることをやらせていただく上で非常に役に立っています。素晴らしい先生や、励まし合う友達、仲間も何人かはできました。このように、試験には落ちてしまっても役に立つことはたくさんありますので、是非頑張って受験勉強をしていただきたいと思います。
12. 今日は、受験勉強で一番大事なことは「自覚」を持って勉強すること、高校入試・大学入試についても同じで、卒業後に何をするのかを考えながら勉強すると素晴らしい勉強になるというお話をさせていただきました。皆様も是非お考えください。

— 2013年10月12日加筆・訂正、林明夫 —

— 2015年7月16日加筆・訂正、林明夫 —

